【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	山　梨　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	甲府西中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	４	１	１３	２６
生徒数	１３７	１２４	１４７	１	４０９	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自ら学ぶ生徒の育成

~基礎基本の定着を通し，確かな学力の向上を目指して~

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・実施学年　１年　２年　３年　全学年　全教科を対象とする。

習熟度別の研究においては，必修科目では１年数学，英語において実施。

選択科目においては，２，３年の選択科目　数学，英語において実施した。

なお課外学習，朝の読書の実施においては全学年，全クラスにおいて研究が行われた。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ　意欲的に学ぶ生徒の育成 基礎基本の定着を通し確かな学力の向上を目指して ○　研究の見通し ・初年度は理論研究，その実践に向けての準備に研究のほとんどを傾けた。 ・次年度に実践研究　３年目に研究発表（公開）を予定している。） ○　研究の内容・方法 ・内容　（１）フロンティアスクールにおける研究 （２）生徒の学習状況の評価規準，評価方法等の研究 （３）総合的な学習の時間の検証 （４）教科研究の充実 （５）学級活動 （６）道徳 ・研究の方法 （１）評価研究・フロンティアスクール・総合検証 ・月１回の校内研の中で全体研・教科研を織り交ぜて研究を進めていく。 ・提案，資料準備は研究企画委員会が中心となって行う。 ・毎週１回の教科部会でも同様に研究を進める。 （２）道徳・特活部会 ・年間の教育活動の中で適宜その部会を開催し，部会員を中心に研究を進める。

平成15年度	○　テーマ　意欲的に学ぶ生徒の育成 基礎基本の定着を通し確かな学力の向上を目指して ○　研究の見通し 昨年度確認された理論研究，また基礎基本の確認，「西中としての学力とは…」というベースとなる考えの確認事項，また実践計画に基づいて具体的に実践研究をしていく。来年度公開することを前提に研究を進めていく。 （研究仮説） 基礎基本の確実な定着を通し，個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善や，教材開発等を行うことにより，確かな学力を持ち「自ら学ぶ生徒」の育成が図られるであろう。 ○　研究の内容・方法 ・研究内容 （１）フロンティアスクールの研究 A　基礎基本とは何かを確認し,その定着を目指し学力の向上を図る。 ①教科研究を中心に行う。（その単元，授業における基礎基本を明らかにした授業を組み立てる。） ②課外学習の研究を行う。（毎日の朝の読書，放課後の学習の時間）特に語彙を深め，豊かにすることに力を注ぐ。 B　個に応じた学習の研究を行っていく。 ・数学，英語における習熟度別クラスの研究 （２）生徒の学習状況の評価規準，評価方法の研究 ・絶対評価に対する教師の共通意識 ・観点別評価規準の設定（評価の信頼性と客観性） ・評定のあり方（観点別評価と評定の結び付きなど） （３）総合的学習の時間の検証 ・前年度までの校内研で作成した総合的な学習の時間の指導計画の実践と報告 ・資料のファイリング （４）学級活動 ・昨年度までの研究を継続する。 （５）道徳活動 ・昨年度までの研究を継続する。 ・研究方法 （１）　フロンティアスクール・評価研究　・総合的な学習の時間 ・原則として月一回の校内研究会の中で全体研・教科研を織りまぜて研究を進めていく ・提案，資料準備は研究推進委員が中心となって行う。その原案は研究企画委員が提案する。 ・教科研究部会のもち方は，週１回の教科部会で行う。 ・教科研究は２学期３教科が授業研を行い，全員で参観する（国，社，理）各教科は各一回どこかで授業研を持つ。（各自一研究を実施） （２）道徳・特活部会 ・年間の教育活動の中で適宜その部会を開催し，部会員を中心に研究を進める。 【昨年度からの変更点として】 ・二年目である今年は，各自の研究実践の年であるということを重視し，全教科が研究授業を実践して，その中で基礎基本を明らかにした授業づくりの研究を行うこととした。そのため各自が一人一研究としてテーマを設定し，研究を行うこととなった。また課外学習の研究は「毎日の実践こそが研究である」を合い言葉に日常生活の中での実践を試行錯誤しながらも継続していくことを確認した。 ・教科研として教科としての基本的な考え方（教科観）をしっかり確立した指導案を作成した。今年度中に一単元は研究成果が出せるように研究を進めた。

平成16年度	○　テーマ　意欲的に学ぶ生徒の育成 　基礎基本の定着を通し確かな学力の向上を目指して ○　研究の見通し 　１１月に学校公開（全学年，全教科）を目指して，フロンティアスクールの研究を進めて行く。教科研においては，１５年度中に１つの単元，１６年度に１～２単元で公開本番までに合計２つないし３つの単元について　発表できるように研究を進める。 ○　研究の内容・方法 　１５年度の内容を継続，発展させていく。

(3)　研究推進体制

・研究推進委員会の中に研究企画委員（研究原案を組み立て，資料を作成する委員）を設置する。

・部門別研究部会として３つの部門を設置する
（１）習熟度別学習部会（おもに数学科，英語科教師によって組織される。）
（２）課外学習部会　　（朝の読書，放課後の課外学習についてリードする。）
（３）必修教科部会　　（各教科の授業研を中心に研究を進める）
また機能別会議として
①教科主任会　　その他として　ホームページ作成委員を設置する。
②学年研究部会
③学活代表者会
④道徳代表者会
⑤総合代表者会
＊昨年度と変わった点は，部門別研究会の選択部会が必修教科部会に変更されたことである。これは教科の授業研究こそが最も大切な研究であると考え変更されたものである。教科において全教科で授業研を実施して研究するという今年度の研究方法に基づき変更された。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題
１．研究の成果

（１）フロンティアスクールの研究について
A 基礎基本とは何かを確認しながら，その定着を目指し学力の向上を図る
①教科研究について
・１学期は各教科において，その教科における基礎基本とは何か，また各教科の授業の基本について検討し，授業研の計画をたてた。夏期校内研においてその基礎基本の考え方をレポートし発表した。その中で特に議論されたのは，教科における基礎基本の考え方特に「教科観」であった。
・２学期（後期）は実際に授業研を実施する中で研究を推進していった。
１０月　２日　理科（甲府市教育研究協議会授業）１年２組
１１月　４日　理科　２年１組
１１月　６日　社会　１年３組
１１月１７日　国語　３年２組
１１月の授業については授業変更し全校教師と指導主事を招いて授業及び検討会を行った。
その後英語，数学，美術，技術，音楽，体育の研究授業も２学期後半から３学期に実施され全教科で研究授業を実施した。
【授業後，確認されたこと。】
１，「西中の教科としての基礎基本の考え，教科観（理念）が生かされていた授業であったか。」
・基礎基本の流れは作られたいたが，教科観（理念）についてまだ途中経過である教科が多くみられた。その点を今後しっかり確立すべきである。
２，「生徒が意欲をもって学ぼうとしていたか。」
①「意欲的」とはどんな点からわかるのか。
②この授業で生徒の意欲は何によって喚起されていたのか。

③課題点，問題点
この３点について話し合われた。特に意欲をどうとらえ，本当にその意欲を喚起する授業とはどうしたら生まれるのかについて話し合われた。今後その授業方法を検討していく必要性が求められた。

３，「基礎基本の考え方，流れが実感できる授業であったか。」

①授業のベースとなる基礎基本（過去）…小学校，前学年　前授業などにかえって
②授業で身につけさせたい基礎基本（本時）
③次のどの単元につながるのか（未来）…次学年，高等学校などにも及んでそれらの基礎基本の流れはどうだったのか。また**基礎基本の定着**はどう図られているか？

・これらの基礎基本の系統図（流れ）がもちろん大切であるが，これらは基礎（学習項目）であって基本（教科観＝考え方ではない。）教科としての考え方。の基礎の中に存在する中心の柱（または土台）をしっかり存在させることが大切である。
「基礎基本がさらなる課題となり，それがまた新しい基礎基本となる。」という考え方が確認された。

４，学習診断カルテについて

・自己評価の方法（学習診断カルテ）を作成することによって，生徒自らが学習履歴を振り返ることにより，学習に対する自己責任能力を身につけ，確かな基礎基本の定着を図っていく。また教師側も授業の組立てや生徒への定着度を確認，再検討できる機会とする。
以上を十分に加味しながら，作られた単元ごとの指導案（指導計画）そしてそれに沿った学習診断カルテが一つずつ作られていくことが教科や教師ひとりひとりの財産となっていくと考えられる。（まず授業研を行うことによって，様々な事項が明らかになり，１時間ごとの授業がつくられる。）という事項を確認できた。

②課外学習の研究について（毎日の朝の読書，放課後の学習の時間）

・各学期の課外学習プリントは学年別に編集し「課外学習プリント集」として発行することができた。
・前期（４月から９月）においては，学習の習慣づくりとして清掃が終わったらすぐに班をつくり，班長中心に取り組み，そのプリントはフロンティアファイルに貼り付けるということを実施した。その習慣はほぼ定着し，課外学習の意識調査のアンケートも実施したが，おおむね積極的に取り組んでいる様子が見られた。９月の学園祭の終了した１０月より，後期の取組に入ることとした。後期はさらに発展させ改良した形を試行した。
・語彙集を再検討，再編集して各自一冊持たせるために語彙ファイルを作り，３月末に発行することが決定した。。

（１）課外学習（西中フロンティアタイム）の充実として

・月　水　＝計算　　・金＝漢字学習　　・火　木＝語彙学習
そのうち計算，漢字学習は前期とかわらない取組みを行っていく。
語彙学習の方法を変えていくことにした。班体制で，調べるのだが，フロンティアの時間内では，なかなか調べることができない問題点などを解消するために，，
・毎週木曜日に５個程度の語彙を提示する。
・各自，次の火曜日までにそれらの語彙や関連する事項を調べる。
・火曜日に班で発表する。各自を発表を聞いて質問したり，メモしたりして知識を深化する。（家庭学習への発展）
各クラスのフロンティア係は「今週の語彙」という掲示物を作り，教室に掲示する。　以上　９月に提案され，実施された。

しかし，上記の方法（家庭に持ち帰っての調べ学習）でも問題点は出された。
①家庭に持ち帰る為，ファイルを忘れる生徒が増えた。
②調べる手段がなかなか手に入らない。
③生徒の中に調べる動機や意欲が生まれにくい。
④科目がめまぐるしく変わるため把握しにくい。

以上よりさらに改良点が出された。
①家庭に持ち帰らなくてもよいように，また調べる手段が手に入るように昼休みに学年で日を決め，コンピューター室，図書室の開放をする。
②調べる内容，時期が授業と関連するような語彙にしていく。
定期テストの範囲にも含む。
③よい取組の生徒を評価する。

・通信票の通信欄に良い取組を紹介する。
・班でチェック表などを作り班長中心に指導させていく。
④科目を９教科にこだわらず，もう少し絞ったらどうかを検討する。
・以上まだまだ語彙の調べ学習については内容，方法共に検討していくことが確認された。いずれにしても指定年度だけの暫定的な取り組みに終わらず，この課外学習が継続していけるように工夫改善し生徒が楽しく取り組むことができるような学習にしていきたい。

（２）朝の読書の内容発展について
・前期，読書の習慣化や管理の段階（下記①～④）から，後期，読書で価値を獲得し，喜びを得る段階（下記⑤～⑧）に発展させた。

【朝の読書の段階】
①時間で席につく②私語はしない，音はたてない③とにかく本を読んでいる。（忘れたら教科書など）④全員が本を読んでいる（HOW TOものなどもみられる）⑤全員が小説（物語り）を楽しんでいる⑥本の紹介など（推薦図書，日常の会話など）⑦本の貸し借り，学級持ち寄り文庫など⑧読書から得た体験談など

※⑤以降の段階に進むために，担任が読書の時間にどう生徒に関わるべきなのかを検討し，それを研究とした。
・また，ある生徒をピックアップしてその生徒の読書記録がどう変容していくか，どんな示唆を与えていったのかなどを記録していくことも確認された。
・読書についての意識調査も５月と２月（未実施）に実施しその変容を調べた。５月の調査ではどの学年でも読書の有意性，意義について７割の生徒が認めており，また読書の時間を歓迎しているといった結果だった。

B　個に応じた学習の研究について
◇数学，英語における習熟度別クラスの研究
1年生の数学は必修授業でTTから習熟度実施。
２，３年生は選択授業において習熟度別クラスを実施。
現在，1年生は後期で新しい単元での習熟度別学習第２期に入っている。
◇英語科における習熟度は導入が難しいのであるが，1年，２年の授業において学期のまとめということで各学期末の最後の週において「基礎コース」と「発展コース」に分かれて実施してみた。二学期も学期のまとめのところで実施する。

（２）生徒の学習状況の評価規準，評価方法の研究
・絶対評価に対する教師の共通意識について
・観点別評価規準の設定（評価の信頼性と客観性）
・評定のあり方（観点別評価と評定の結びつきなど）
これらについては夏期校内研にて検討，各教科規準を明らかにした。
また保護者への評価の通知として各学期，各学年ごとに全教科の学習内容を冊子にして全家庭に配布した。
・授業においては各教科自己評価表（学びの歩み）として学習診断カルテづくりの研究をした。特に授業研を行う単元（範囲）における学習診断カルテを完成させ実施することで，カルテの数を一つずつ増やしていくことができた。これにより生徒の学習に対する姿勢が意欲的に変容してきた。

（３）総合的学習の時間の検証
西中総合的な学習の時間テーマ「自立と共生」をもとに各学年で生き方を学ぶ機会としての総合学習を行った。
１年　情報収集リテラシーと自分を知り，職場見学へ　林間（環境学習）
２年　職場体験から進路へ向かい高校調べ　修学旅行（文化遺産調べ）
３年　各自が個人レポートとしてテーマを決め卒業レポート
・前年度までの校内研で作成した総合の指導計画の実践と報告
・資料のファイリングを行った。

（４）学級活動の研究
①**授業づくり**
授業は　①教科内容
②授業過程
③学習集団　　の３つの側面を持つ。
ポイント（なぜ学習集団を高めるのか）について検討することにした。
※学習主体は生徒である。
学習課題に対して一人一人が自らに問いを発し，自ら答えを求めようとする，探究的学力を身に付けさせようとする事。
※学級内（学習集団）に内的，意識的な学習規律をつくりだすこと。
・学習は「個」から出発して「集団」に入り質を高めて「個」にもどる。
・学習は，既知と未知の接点に成立し，既知の部分を拡大していく過程ともいえる。

★だから「個」の既知の部分が「集団」の中に総動員される事が必要であり，「集団」にそれを受け入れられる素地があってこそ質を高めて「個」にもどすことができる，という考えのもとにわかる授業をつくるためのベースが学級づくりにあるということを確認し，学級の学習集団づくりについて夏期校内研にて検討した。

②「なぜ勉強するのか」「家庭学習はなぜ必要か」
この２つについての授業を授業参観の中で実施。（１，２年）
３学期の授業参観にこの授業を配当して実施した。

（５）道徳の研究
今年度は，「地域ふれあい道徳」推進校としての公開授業を実施した。
１０月４日　全クラスにおいて保護者ならびに地域の方を招き，道徳の授業公開を行った。また授業後，各学級において地域の人も招いて「中学生の道徳意識をどう育てるのか」についての懇談会を実施した。

２．今後の課題

来年の公開（授業）までに
【教科研究の分野において】
各教科で，３つ（ないし２つ）の単元の研究がされるとよい。
１つめ　今年度の研究により構築された単元。
２つめ　来年度１学期に一単元研究。
３つめ　公開の本番で見せる授業としての単元。
（部員数が１名のところなどは２つでも可とする）
【これからの授業づくりにおいて】
（１）各教科　３つ（ないし２つ）の単元の研究報告をベースに公開していく。

（２）基礎基本の各教科としての考え方，教科観を築く。
・基礎基本は２つの両輪があること。
（生活体験がベースの基礎基本と教科ベースの基礎基本）
・**西中の５つの学力**　①知識力②技能力③思考力④表現力⑤学習力のどの学力をどんな場面，手段で身につけさせるのかを明らかにする。
・教科としてその教科の一番の中心（柱となる）考え方，見方，価値観，それらを明らかにした教科観（基礎を教えるべき本当の基本）を確立していること。（以上冊子に）
（３）基礎基本の定着をどのような授業によって図っていくのかをさらに研究していくこと。
（４）授業研を行うことによって，上記の項目を作成し，修正を加えていくことができる。
それによって１時間１時間の授業の充実を図っていく。
（５）何よりも生徒主体の生き生きとした「意欲的に学ぶ」授業のつくり手また，授業者としての技術をどう身に付けていくのかを研究していかなければならない。
【課外学習の分野において】
（１）課外学習の方法，内容の検討
・計算，漢字の学習においては，定着や生徒の意欲も高く良好に実施できているが，本校の課外学習の柱となる「語彙学習」 においてはまだ試行錯誤を繰り返している段階である。調べ学習をどのように有効にかつ楽しく実施できるのかを検討していく必要がある。
（２）課外学習，朝の読書の実施においてどのような変容を見ることができたのかを明らかにする必要がある。その調査方法や生徒の意識を知る手段を検討する必要があるだろう。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・文科省教育課程実施状況調査　７月…　各教科においてどの分野のどの学力がどの程度身についているのかを把握。
・本校独自の学力テスト（３月末）１，２年実施
…　５教科の学力（各学年）の基礎定着度の調査）
・読書意識と実態アンケート５月，２月…読書の意識と実態調査　変容を見る
・課外学習についての意識調査　７月　…課外学習の意識を見る
・学習意欲についての調査　…何の為に学習しているのかの学習動機や意識調査
また家庭学習の実態を知る。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

＊来年度公開　　日時　平成１６年１１月１２日（金）予定
内容　全教科　全学年　授業研　および教科研　全体研を予定
場所　甲府西中学校
＊ホームページ作成：随時アップ していく。１５年４月には，全教科提示予定。

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□ １５年度からの新規校　☒ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ３学級以下　□ ４～６学級
□ ７～９学級　☒ １０～１２学級
□ １３～１５学級　□ １６学級以上

【指導体制】　□ 少人数指導　☒ Ｔ．Ｔによる指導
□ その他

【研究教科】　☒ 国語　☒ 社会　☒ 数学　☒ 理科
☒ 外国語　☒ 音楽　☒ 美術　☒ 技術・家庭
☒ 保健体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☒ 有　□ 無